

沖縄県護国神社社報

# うむい三号

特集  
学徒たちの沖縄戦  
『積徳学徒看護隊』

天の優しい御恵みと思ひますが、本日出撃の予定が、天候不良のため明日に延期され、おかげで心のこもる千人針が私の手に入りました。

嬉しく身につけ南の決戦場にまわります。

私は千人針はとてもまにはないだろうと断念してみたのですが、いよいよ出撃の幾時間か前に私の手に入りました。

また好物たくさん、ありがとうございます。可愛い私の教へ子の練習生にもやり、一緒に喰べて別れました。

母上様よりの「御守護札」肌身はなき持つて任務に向つてまゐります。

猛より

## 英靈の言乃葉 千人針

海軍少佐 市川 猛命

神風特別攻撃隊第一八金剛隊  
昭和二十年一月五日  
比島方面にて戦死  
愛知県出身  
二十三歳

父上様  
母上様  
誓

一瞬の飛行作業もすなはち戦闘なり。

救世の務めなり。最後の忠節なり。  
今日も一日最善を尽さん。

## 社報「うむい」について

沖縄の言葉で「思い、願望、考え、所存」のことを「ウムイ」とい、戦争で亡くなつていった人達の思い、そして残された遺族、戦友達の思いを次の世代へと継承すべくつけられた名前。

日清戦争以後、敢然と国難に立ち向かつていつた先人たちの尊い精神が、この「うむい」を通して末代まで受け継がれ、真に戦争の無い平和な世の中になるようにとの願いが込められている。



## 目次

英靈の言乃葉	23
護國神社この一年	22
特集	21
学徒たちの沖縄戦	18
「積徳学徒看護隊」	16
永代祭申込者御芳名	14
永代祭お供料奉納者御芳名	14
(命日のお供え料奉納者)	14
新參集殿御造営奉賛金奉納者御芳名	14
今に残る激戦の跡	7
社務日誌抄	3
御奉納一覧	4
編集後記	3

# 護国神社この一年

【第四十三回秋季例大祭】

き、大祭委員長代理の大城英男副会長、沖縄県遺族連合会会长代理屋久千代子氏がそれぞれ祭文を奏上した。

祭典には、靖国神社宮司湯澤貞様を始め神社本庁統理久邇邦昭様、日本遺族会会长中井澄子様ほか全国各地から慰靈電報及び祭詞が寄せられた。



平成十三年十月二十三日、第四十三回秋季例大祭が御遺族、崇敬者約六百人の参列のもと厳粛に斎行された。定刻の午後一時、大祭開始を知らせる太鼓の合図とともに祭典が行われ、斎主又吉宮司の祝詞奏上に続

【大祓式】・【除夜祭】・【歳旦祭】の斎行



【第四十四回春季例大祭】

また、大晦日から元旦にかけ御社殿前に設けられた特設スタジオから民放ラジオの生放送が行われ、多くの参拝者で賑わった。



平成十三年十二月三十一日から平成十四年一月一日にかけ、大祓式・除夜祭・歳旦祭が斎行され、新しい年に向けての祈願が行われた。

平成十四年四月二十三日、第四十四回春季例大祭が斎行された。秋季同様、約六百人の遺族、崇敬者が参列し厳粛に祭祀が執り行われた。祭典では、裏千家淡交会沖縄支部よりお茶の奉納が行われ、また航空自衛隊那覇基地太鼓部による奉納太鼓も行われた。

【沖縄南方全戦没者合同慰靈祭】

平成十四年五月八日に沖縄県神道青年会並びOB主催により青年会創立二十周年に際し沖縄南方全戦没者合同慰靈祭が斎行された。靖国神社宮司湯澤貞様・神社本庁常務理事加藤隆久様をはじめ神社序長・別表社宮司など全国神社関係者、國學院大學・皇學館大學の理事長、神道青年九州地区協議会役員・OB、神道青年全国協議会役員・OB、神道青年九州地区協議会役員・会員、県内関係団体代表など二百数十名の参列のもと盛大に執り行われた。

【戦没者総合慰靈祭】

及び世界平和祈願祭が斎行された。斎主又吉宮司以下全国の青年神職四十余名が奉仕し、神青協各県単位会より全国都道府県の特産物がお供えされ、厳粛に祭典が執り行われた。



【沖縄県全戦没者慰靈祭及び世界平和祈願祭】

平成十四年六月十九日に神道青年全国協議会主催により、沖縄復帰三十周年に際し沖縄県全戦没者慰靈祭

平成十四年六月二十二日（慰靈の日）、戦没者総合慰靈祭を斎行した。正午の時報に合わせて黙祷がささげ



●学徒隊について  
沖縄戦では正規の兵隊の他に「ひめゆり学徒隊」「鉄血勤皇隊」に代表される、下は十二～十三歳上は十八歳からなる旧制中学、師範、高等女学校在学中の男女学徒が動員され、最前線で通信、観測、看護等の任務につき、その多くが犠牲となつた。



## 第2回「積徳高等女学校」 —積徳学徒看護隊—

### 特集

#### 学徒たちの沖縄戦

##### ●学徒隊について

沖縄戦では正規の兵隊の他に「ひめゆり学徒隊」「鉄血勤皇隊」に代表される、下は十二～十三歳上は十八歳からなる旧制中学、師範、高等女学校在学中の男女学徒が動員され、最前線で通信、観測、看護等の任務につき、その多くが犠牲となつた。

ここでは「学徒たちの沖縄戦」と題して、各学校ごとに若くして散つていった男女学徒たちの足跡をたどり、彼らがどのような「想い」をもつて戦場へ赴き、どのような体験をしたのかをたどり、亡くなつていった学徒たちに鎮魂の誠を捧げたい。

られ、御遺族多数が列席する中、斎主又吉宮司のもと祭典が厳肅に執り行われた。

##### 「殉国英靈顯彰祭（みたま祭り）」

平成十四年八月十五日正午より、神社、英靈にこたえる会沖縄県本部共催による「みたま祭り」が斎行された。正午の時報に合わせて黙祷がささげられ、斎主又吉宮司によつて、御遺族、各種団体崇敬者列席のもと祭典が厳肅に執り行われた。



#### △これからの予定△

平成十四年十月二十三日  
「第四十四回秋季例大祭」

平成十四年十一月十五日  
「七五三詣で」

平成十四年十一月二十三日  
（十一月中受け付け）

平成十五年一月二十三日  
「新嘗祭」

平成十四年十二月三十一日  
「大祓式」、「除夜祭」

平成十五年一月一日  
「歳旦祭」

平成十五年一月三日  
「元始祭」

平成十五年四月二十三日  
「第四十五回春季例大祭」

平成十五年六月二十三日  
「戦没者総合慰靈祭」

平成十五年八月十五日  
「殉国英靈顯彰祭（みたま祭り）」

当神社では、春・秋の例大祭を始め六月二十三日の戦没者総合慰靈祭、八月十五日の殉国英靈顯彰祭（みたま祭り）等種々の祭典を御奉仕し、戦争によつて散華されたみたまをお慰め申し上げております。

また、各々の戦没者の御命日には神前にて永代命日祭を斎行致しております。

この永代命日祭は、御遺族からのお申し出により斎行されるもので、当神社では、沖縄県出身の戦没軍人・軍属並びに一般住民を始め、沖縄戦にて散華された本土出身戦没者の御遺族方からの永代祭祀申込を受け付けております。

永代祭申込み後は、御遺族へ前もつて御案内申し上げ、命日に祝詞を奏上し、御祭神の慰靈安鎮と御遺族の御繁栄を祈念致します。（御参列が無くても斎行致します。）

なお、永代祭申込み初穂料は二万円以上となつております。詳しくは、当社社務所（電話〇九八一八五七一七九八）までお問い合わせ下さい。

#### 永代祭祀のご案内

主又吉宮司のもと祭典が厳肅に執り行われた。

## ● 積徳高等女学校の沿革

## 積徳学徒看護隊

積徳高等女学校は、昭和五年大典寺住職管深明によって、県内子女に家事、裁縫、お茶など日本女子としてのたしなみ、教養を身につけるための私塾として開設された。昭和七年那覇市の中心街美栄橋町に新築移転。家政女学校を経て、昭和十八年大典寺の本山である西本願寺管長の号にちなみ「沖縄積徳高等女学校」となった。

学校のまわりには広々とした畑や丘があり、近くには魚が泳ぐきれいな小川も流れ、今では想像もできない静かな落ち着いた環境であった。

現在の久茂地川沿い、ダイエー那覇店の向かい側に位置していた赤瓦校舎。1930年に和裁・家政などを教える私塾として開設された

## うむい

（十・十空襲）以来、積徳高等女学校では他の高等女学校と同様、通常の授業はほとんど中止され、高射砲陣地構築や戦車壕堀り、高射砲の鋸磨き作業に従事していた。そして昭和二十年に入ると軍の要請により、四年生に対し看護教育が施されることになった。

同年二月、看護教育が終わつた生徒百五十名中五十六名が、東風平国民学校に駐屯していた第二十四師団野戦病院で実習訓練を受けることとなつた。

この東風平での実習訓練は午前五時起床、床上げ、朝礼、軍人勅諭朗讀、飯上げ、衛生看護講義、軍歌演習、非常呼集、不寝番などまさに分刻みの生活で、午前中に行われた講

義は午後にテスト、飯上げ当番は対応が悪いと全員ビンタ、床上げ時に毛布のたたみ方が悪いと呼び出しなど軍隊同様実に厳しいものであった。

三月二十三日米軍の爆撃が開始されたため、実習生はその夜豊見城城跡にある第二十四師団小池隊（小池勇助少佐）第二野戦病院へ移動、到着後入隊希望の是非が確認され、二十五名が入隊することとなつた。

学徒達は最初、治療部、病室、薬剤本部などに分かれて勤務したが、四月の米軍上陸後は日増しに負傷兵が前線から運ばれ、治療部と病室での勤務となつた。



旧陸軍第24師団  
第二野戰病院 塘入口

現在の塘入口

## うむい

平成14年10月1日

治療部では負傷した兵士の手術が連日行われ、大きな足にメスを入れ、骨の部分を手術用の鋸で切り離す切斷手術の補助、内臓破裂で腸が盛り上がりむくむく動いている負傷兵の手術など、すさまじい光景の連続であった。

また病室では、二段ベッドにところ狭しと横たわっている負傷兵の包帯の交換、排出物の処理など、十七・十八の乙女たちには苛酷すぎるほど勤務であった。

そして、夕刻砲弾が一時的に止むときを見計らって、一人ひと組みになり近くの炊飯場から食事を運び、また砲弾の飛びかうなか水汲み作業や包帯の洗濯に出るなど、ほとんど寝る暇の無い状態で、常に死と隣り合わせの状況であった。

しかしそのような極限状況のなかでも純真な少女の心を失わず、水汲みの声をかけ枕元に水や乾パンと手

みに出た際に見つけた可憐な白百合の花を、そっと負傷兵の枕元に置き故郷を思い出した兵士が感涙する光景もあった。

榴弾をおいて別れた。移動は困難を極め、降り続く雨によつて道はひどいぬかるみで、頭上には照明弾があがり、至近弾が炸裂するなか患者をかばいながら重い荷物を背負つてゆく行軍は遅々として進まなかつた。こうして何時間もかけて波平（以下現糸満市内）、座波、高嶺、真壁と通り過ぎ、やつと目的の摩文仁村糸洲の壕に到着することができた。

この糸洲の壕（ウツカーガマ）は、内部が広く、洞内に地下水が流れ込み、飲み水には不足しなかつた。しかしいつも水に浸かっている状態のため、衛生状態はいいとはいえないが、また壕ではせつかく運んだ薬品、手術器具等が米軍の砲弾によつて破壊、消失していたため、病院としての機能はすでに果たせなくなつていた。



外科病棟・片側に2段ベッドが並べられていた

私も國の為にがんはるぞ!」と意気込みは充分でしたが、負傷兵の傷口からうじ虫が湧きだしたすごい悪臭や、また、破傷風患者や手、足の切断で痛みを堪えている姿が、耐えられないほど可哀相で私は泣き出し、上官に叱られました。夜になると、切斷した手や足を外へ運んで捨てに行く時、大きく腫れた足などは、私たちの体重よりも重く、細い体の私

ツトする。苦しい日が続きました。六月二十六日隊長は、全員に集合を命じ各グループで北部へ脱出し、そして、必ず生きて両親の元へ帰つてくれと、涙ぐんでの別れの訓辞をなさいました。残念でしたが隊長は、間もなく自決なさつたと聞いております。本当に神様のような方でした。御恩は、一生忘れません。ありがとうございます。

四日間は無事でしたが五日目の朝疲れで寝ていると、「皆んな起きて！」大仲さんの叫び声。飛び上がると敵兵の声が聞こえ、あつと言う間に数人の敵兵が目前に立っていました。どうしようと顔を見合わせていると、近くに隠れていたと思われる日本兵が、手榴弾を敵兵に投げたので（それ今だ）と反対側へ無我夢中で逃げましたが、そこは、敵陣地

野戦病院での看護隊の体験

仲里  
ハル

は、何度も転び、起きあがるのに大変でした。でも、勝利を信じて、不平も言わず、もくもくと励みました。そのうち敵の攻撃は、日増しにひどくなり、とうとう南部へ移動する事になりました。

「うございました。離島の宮古、八重山、久米島出身の三人だけ、隊長の訓辞の後、夜中に脱出しました。三人は相谈し昼は草むらで寝て、夜歩こうと決めました。「さあ突破しよう」激戦地では、

六月十七日以降は毎日のようにガス攻撃を受け、その都度水に浸したタオルで口と鼻を押さえ辛うじて生き長らえたが、入口近くにいた民間人、衛生兵は次々と絶命していった。そのころになると、壕内に残った少数の衛生兵さえも切込隊を編成し、夜間米軍陣地へ夜襲をかけるようになつていった。だが、そこから生還する兵士は皆無であつた。

そして六月二十六日、学徒達に集



糸洲の壇入口より外を見る



### 糸洲の壇内部

その後小池隊長は自決、残った学徒たちは各々二、三名単位で壕の外へ飛び出していった。

この第二十四師団第二野戰病院（山三四八七）小池隊に配属された積徳学徒看護隊は、壕脱出後に三人が敵弾に斃れたが、その多くが無事保護されている。それは他の学徒隊の生還率に比べれば抜けて高い。それは、壕内では一番安全な壕の奥に配置され、また解散時にも隊長自らが生き延びるよう語りかけたことなど、隊長である小池勇助少佐をはじめとする部隊員の配慮によるものが大きいと思われる。

そして生き残った学徒たちは、この小池隊長以下部隊員の恩に感謝し、今もその意志を継ぎ沖縄戦の語りべとして活躍している。

11

## うむい

の真只中。それこそ雨が降るようになつて、射撃を受けましたので、すぐ伏せていると後の方で「やられた。やられた。逃げないで、助けて。」と紀久ちゃんの悲痛な叫び。なんと全員倒れて血の海となつてしましました。“どうしよう。どうしよう。”私は、自分の体をさわると、血は出でない。しかし髪の左の三つ編みがない。吃驚したが体は無事でしたので「二人を助けよう。」と思っていました。暫くして、敵兵の車が来たので「助けてください。」と私は拝み続けました。

怪我をした二人を乗せて、治療車

さい。」そして壕を脱出する時の細かい注意を与えてくださいました。

壕内は重苦しい雰囲気に包まれていました。衛生兵たちも「アメリカ兵は、民間人、女子どもには危害を加えるような事はしないから、安心して出て行きなさい。」と勇気づけてくれました。

学徒隊が無事壕から脱出したことを見とどけて、隊長は自決なさつたそうです。入隊当初から、隊長始め、衛生兵には大変大事にされ解散するまで、一人の犠牲者もいませんでした。解散の時、隊長に「入福（私の旧姓）かならず生きて隊長の骨を取りに来てくれ。」と言われた事が戦後ずっと、気になり片時も忘れた事はありませんでした。

昭和四十五年六月、衛生兵の生存者小木曾さんが、隊長の遺骨收拾に来沖された時、連絡があり参加する



女学校同窓会のみなさん（後方の系洲の壕案内板は、同窓会の私費にて建てられたもの）

## うむい

の真只中。それこそ雨が降るようになつて、射撃を受けましたので、すぐ伏せていると後の方で「やられた。やられた。逃げないで、助けて。」と紀久ちゃんの悲痛な叫び。なんと全員倒れて血の海となつてしましました。“どうしよう。どうしよう。”私は、自分の体をさわると、血は出でない。しかし髪の左の三つ編みがない。吃驚したが体は無事でしたので「二人を助けよう。」と思っていました。暫くして、敵兵の車が来たので「助けてください。」と私は拝み続けました。



は走り去つて行きました。  
私は一人取り残されました。私は恐いやら淋しいやら泣き出していると、アメリカのMPが私を車に乗せ、収容所へ連れて行くとの事。ぶるぶる震えていると、優しく水を飲ませてくださいました。でも、これからどこへ連れていくのでしょうかと思うと恐ろしく泣きだし“お母さん助け”と心の中で叫び続いているうちに、収容所に着きました。

## 小池勇助隊長に感謝



大仲 紀久子

六月中旬頃から、糸洲の壕にガスが投げ込まれ、日ごとに回数も増し私たちも咳込み苦しみました。

「戦争が負けると思えば、お前たちを預かるんではなかつた。親御さんになんと詫びてよいか。申し訳がたたない。」また、時には何か歌つてくれと言われ私たちも、ローラレイ、故郷、花などを歌いました。歌いながら悲しくなり泣いておりました。隊長の故郷は浅間山の麓で、野沢という所だから訪ねて来てほしいと常々話しておられました。

六月二十七日に隊長の解散のお言葉があり「どんな事があつても死んでいいけない。生きて親元に帰りなさい」と思いました。

隊長もこの状態では、看護隊も危ないと思われ解散を決意なさつたと思います。常日頃から隊長は、命の尊さを諭され生きる望を与えてくださりました。折りを見てよく看護隊を集合させ何時ものように「姫達や乙女達や。」と自分の娘のように声をかけられ、お話しをなさるのでした。

「戦争が負けると思えば、お前たちを預かるんではなかつた。親御さんになんと詫びてよいか。申し訳がたたない。」また、時には何か歌つてくれと言われ私たちも、ローラレイ、故郷、花などを歌いました。歌いながら悲しくなり泣いておりました。隊長の故郷は浅間山の麓で、野沢という所だから訪ねて来てほしいと常々話しておられました。

六月二十七日に隊長の解散のお言葉があり「どんな事があつても死んでいいけない。生きて親元に帰りなさい」と思いました。

あの戦乱の中で理性を失うことなく最後まで、私たちに暖かい心遣いをしてくださいました、偉大な隊長を守りお骨を拾いに参りました。昨年は、奥様と息子様がお骨を拾いにんな所で二十五年間、淋しい思いをなさつただろうと思いました。

あの戦乱の中で理性を失うことなく最後まで、私たちに暖かい心遣いをしてくださいました、偉大な隊長に心から感謝申し上げ、御冥福をお祈り致し、いつ迄も隊長の遺徳を偲びたいと思います。

北海道足寄郡足寄町  
北海道古宇郡泊村  
北海道横浜市  
愛知県海部郡  
北海道札幌市  
北海道網走郡  
北海道札幌市  
三重県志摩郡  
北海道札幌市  
山口県宇部市  
岐阜県岐阜市  
岩手県花巻市  
北海道札幌市  
北海道札幌市  
岩手県花巻市  
北海道札幌市  
北海道札幌市  
佐賀県伊万里市  
長野県長野市  
福岡県春日市  
神奈川県横浜市南区  
大分県玖珠郡玖珠町  
愛知県岡崎市  
奈良県天理市  
愛知県南設楽郡

大竹口重幸様  
澤田政枝様  
久保井淑子様  
吉野幸雄様  
石垣治三様  
鳴海美栄子様  
西 晓男様  
櫻井朋子様  
杉本茂樹様  
鶴原正規様  
上田 喬様  
松波一男様  
瀬川夕工様  
竹川チヨ様  
伊藤和子様  
荒川嘉子様  
瀬川 淳様  
桜田スミ子様  
中原みさを様  
條島源吾様  
菅原ヤスノ様  
大橋温子様  
高津菊枝様  
中島美千代様  
岡部ハツ子様  
佐藤ひでの様  
原 江つ様  
加藤志づ様  
切田京子様  
石野子里様

愛知県豊橋市	徳島県阿南市	福岡県大牟田市	沖縄県那覇市	神奈川県横浜市	東京都八王子市	北海道札幌市	兵庫県伊丹市	滋賀県甲賀郡	沖縄県那覇市	東京都荒川区	石川県小松市	奈良県生駒市	東京都中野区	神奈川県横浜市	茨城県取手市	北海道苫前郡	佐賀県三養基郡	熊本県熊本市	北海道河西郡茅室町	北海道札幌市	東京都江戸川区	宮城県黒川郡	愛知県岡崎市	広島県広島市	北海道札幌市	和歌山県那須郡	岐阜県恵那郡福岡町	北海道北見市
--------	--------	---------	--------	---------	---------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	---------	--------	--------	---------	--------	-----------	--------	---------	--------	--------	--------	--------	---------	-----------	--------

杉浦文子様 幸田かね様 小柳昌敏様 饒平名幸子様 松本敬子様  
石上順子様 大本進様 鈴木名香子様  
宿谷長次様 仲村致慶様 濑名波初様 川俣雄弘様 春出春子様  
荒川文子様 佐々木禎助様 土田千代様 山本太一郎様 立石博義様  
大塚幸男様 北村孝子様 松尾雪子様 森正子様 菅原秀子様  
内藤はる子様 児玉光晴様 岡田昌久様 森正子様 鳴海美栄子様  
十良沢義治様 藤川嘉寿子様 岡山孝平様

永代祭新規申し込者

(平成十三年四月一日～平成十四年八月三十一日)  
福井県板井郡  
・ 埼玉県桶川市  
・ 福井県福井市  
・ 群馬県甘楽郡  
・ 北海道札幌市  
・ 東京都西多摩郡  
　　川本秀子様  
　　白田智子様  
　　中村三郎様  
　　鶴原正規様  
　　外  
　　須崎幸子様

高津枝様  
佐藤ひでの様  
杉浦文子様  
大橋温子様  
木本 進様  
石野千里様  
中島美千代様  
岡部ハツ子様  
辻 功様  
林 豊子様  
大塚幸男様  
岡山孝平様  
牧 清様  
荒川文子様  
青木 位様  
松原マツ様  
後藤修士様  
土田千代様  
鳴海美栄子様  
山本太一郎様  
仲村致慶様  
立石博義様  
清水勝剛様  
堀池四郎様  
北村孝子様  
川口日出様  
安田信吉様  
岡田昌久様  
瀬名波初様  
鈴木名香子様

東京都中野区  
静岡県藤枝市  
愛知県名古屋市  
神奈川県横浜市  
北海道茅部郡  
北海道上川郡  
岡山县津山市  
愛知县海部郡  
福冈县柳川市  
和歌山县那賀郡  
石川县江沼郡  
熊本县熊本市  
高知县南国市  
鹿儿岛县姶良郡  
高知县南国市  
广岛县广岛市  
爱知县豊明市  
宫城县黒川郡富谷町  
北海道上川郡  
北海道河西郡茅室町  
北海道札幌市東区  
爱知县岡崎市  
滋贺县甲賀郡  
爱知县名古屋市  
爱知县豊桥市  
冲绳县那霸市  
北海道網走郡  
大阪府堺市  
福井县福井市  
爱知县稻沢市

佐々木楨助様 西澤功子様  
早瀬千代子様 松本敬子様  
佐藤武司郎様 村上義雄様  
石川美芳様 気田くわ様  
中川小夜子様 藤川嘉寿子様  
松尾雪子様 石田芳枝様  
十良沢義治様 黒木正敬様  
西原降稜様 児玉光晴様  
平野 鈴様 菅原秀子様  
森 正子様 加藤 勤様  
内藤はる子様 近藤義文様  
宿谷長次様 阿部辰巳様  
小野すみゑ様 成田静子様  
恵 親也様 与那嶺文子様  
野阪重晴様 下田方子様

福島県二本松市	千葉県鎌ヶ谷市	三重県伊勢市	外山とめ様
東京都江戸川区	中村 清様	安田信吉様	
三重県志摩郡	岡田昌久様	平賀あい様	
沖縄県勝連町	絹川美智子様	平良一男様	
北海道札幌市	村上力三様	塚本次雄様	
滋賀県栗東市	林 宣昭様	滋賀県傷痍軍人会様	
石川県金沢市	布施 茂様		
滋賀県栗東市	津島 黙様		
滋賀県金沢市	菅原秀子様		
滋賀県栗東市	喜屋武享様		
滋賀県栗東市	伊野波哲様		
滋賀県栗東市	宮里盛吉様		
滋賀県栗東市	三村一徳様		
滋賀県栗東市	村上真喜子様		
滋賀県栗東市	横山保雄様		
滋賀県栗東市	我喜屋汝揖様		
岐阜県美濃市	纈纈信義様		
和歌山県和歌山市	不二歌道会 平山様		
神奈川県座間市	広島県傷痍軍人会様		
北海道札幌市	大城マーシャル(傳榮)様		
北海道余市郡	河本カヲル様		
沖縄県糸満市	高津菊枝様		
北海道札幌市	木村シズ子様		
北海道余市郡	柳田光一郎様		

石川県小松市	宮城武志様
和歌山県和歌山市	南出春子様
島根県浜田市	内畠 弘様
沖縄県那覇市	大田米一様
山形県山形市	當間彦太郎様
北海道紋別郡	深瀬仁郎様
北海道網走市	中野渡美智子様
埼玉県さいたま市	西 晓男様
沖縄県国頭村	さいたま市遺族会
三重県	大宮支部
福岡県宗像郡	宮城久武様
沖縄県那覇市	三重県神道青年会様
宮崎県西都市	佐々木大治・朗子様
奈良県生駒市	町田宗徳様
鹿児島県鹿児島市	中武 重様
北海道深川市	柿木克巳様
千葉県東金市	島津修久様
沖縄県那覇市	浅野芳子様
沖縄県那覇市	高山友二様
北海道上川郡	與那嶺文子様
沖縄県那覇市	古我知とみ様
沖縄県那覇市	清野吾郎様
沖縄県伊江村	平田貞子様
福島県いわき市	川田江勇様
京都府京都市	知念栄子様
京都府京都市	渡辺勝美様
京都府京都市	伊江村遺族会

お知らせ

沖縄県護国神社は、昭和十一年に沖縄県招魂社として御創建以来、平成十七年を以ちまして七十年を迎えます。そこで、その記念事業と致しまして、狭小、老築化しました現在の社務所、参集殿、倉庫をひとつの建物として集約致し、高齢になられた御遺族方が気軽に参拝できる新参集殿の御造営を計画致しております。

つきましては、時局がら厳しい経済状況下、右記御奉納された方々には重ねてのお願いにはなりますが、出来るだけ多くの方々からの御支援を賜りたく、別紙「ご奉賛のお願い」添付の振込票にて御奉賛いただきますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

宮崎県西都市	牧
愛知県豊橋市	清様
愛知県名古屋市	小野すみゑ様
岡山県津山市	近藤義文様
北海道札幌市	植松 香様
愛知県稻沢市	石川美芳様
大阪府堺市	川口日出様
福島県一本松市	恵 親也様
石川県江沼郡	安田信吉様
福岡県柳川市	中川小夜子様
愛知県海部郡	気田くわ様
北海道上川郡	阿部辰巳様
千葉県市川市	田中美智子様
北海道茅部郡	松永修巳様
沖縄県那覇市	佐藤武司郎様
北海道網走郡	与那嶺文子様
北海道札幌市東区	濱松 昭様
沖縄県浦添市	成田静子様
福井県福井市	野阪重信様
北海道札幌市	加藤 勤様
愛知県津島市	加藤恵一様
愛知県稲沢市	下田方子様
沖縄県那覇市	川上ふさゑ様
北海道札幌市	安里貞子様
滋賀県栗太郡	堀池四郎様
群馬県高崎市	上原艶子様
神奈川県藤沢市	深町フジノ様
沖縄県那覇市	辻 功様
沖縄県中城村	島仲 彌様
宮平才トメ様	宮平才トメ様

新參集殿御造営奉賛金奉納者御芳名	
(平成十四年八月三十一日までの御奉納者)	
金参拾萬円	愛媛県松山市
金式拾萬円	沖縄県浦添市
金壱拾萬五千円	福井県三国町
金壱拾萬那覇市	沖縄県那覇市
金壱拾萬円	福岡県浮羽郡
北海道札幌市	北海道札幌市
東京都千代田区	東京都千代田区
財団法人 特攻隊戦没者慰靈平和祈念協会様	特攻隊戦没者慰靈平和祈念協会様
金五万円	島仲 弼様
沖縄県那覇市	矢野直彦様
沖縄県宜野湾市	鳴海美栄子様
東京都中野区	陸士52期生会様
東京都豊島区	瑞泉同窓会
愛知県名古屋市	許田ヨシ様
兵庫県尼崎市	佐々木禎助様
沖縄県沖縄市	修養団捧誠会様
滋賀県東浅井郡	笠原宗子様
東京都武藏村山市	多田容幸様
沖縄県糸満市	東 健勇様
沖縄県西原町	清水益栄様
福岡県春日市	渡辺三郎様
滋賀県八日市市	徳元洋真様
岩手県盛岡市	琉球ゴーレックス様
金参万円	大橋温子様
瀬川 淳様	富田 博様

北海道斜里郡	北海道函館市	愛知県一宮市	沖縄県勝連町
愛知県岡崎市	伊藤和子様	原江つ様	城間貞様
北海道苫前郡	沖縄県那霸市	佐賀県伊万里市	土田千代様
佐賀県伊万里市	静岡県浜北市	神奈川県横浜市	株広宣様
静岡県浜北市	名古屋市中村区	名古屋市中村区	條島源吾様
神奈川県横浜市	奈良県天理市	奈良県天理市	富永清市様
名古屋市中村区	岡山県新見市	岡山県新見市	山本太一郎様
奈良県天理市	愛知県岡崎市	愛知県岡崎市	早瀬千代子様
岡山県新見市	沖縄県那霸市	沖縄県那霸市	切田京子様
愛知県岡崎市	沖縄県國頭村	沖縄県國頭村	石川菊江様
沖縄県那霸市	福岡県大牟田市	福岡県大牟田市	内藤はる子様
沖縄県國頭村	北海道石狩市	北海道石狩市	株沖縄庭芸
福岡県大牟田市	北海道空知郡	北海道空知郡	伊波前良様
北海道石狩市	東京都八王子市	東京都八王子市	小柳昌敏様
北海道空知郡	金壱万円	吉永義尊様	熊倉スミ様
東京都八王子市	愛知県春日井郡	赤羽常勝様	小川スズ様
愛知県春日井郡	愛知県一宮市	高柳潔子様	
愛知県一宮市	埼玉県さいたま市	佐治房子様	
埼玉県さいたま市	北海道虻田郡	小候第22期会	
北海道虻田郡	群馬県伊勢崎市	宮永幸子様	
群馬県伊勢崎市	群馬県伊勢崎市	横山主一様	
群馬県伊勢崎市	神尾ひろ様	神尾ひろ様	

# 今に残る激戦の跡

「シユガーローフ」

—那覇市安里、摺鉢山・五二高地—

沖縄の新都心として、現在建設ラ

ッシユ中の那覇市天久（おもう町）

の東方の地に見遙かす平坦な地にそ

びえ建つ巨大な水タンク、それこそ

今を去る五十七年前、日米両軍が死

闘を繰り返し

た安里、摺鉢

山・五二高地

（米軍名シユ

ガーローフ..

Sugar-Loaf）

である。



安里52高地の水タンク

隊は、第一防衛ライン（牧港、嘉数、我如古、和宇慶を結ぶ線）、第二防衛ライン（城間、屋富祖、安波茶、前田、幸地、小波津）が突破され、いよいよ指令部のある首里の眼前に

米軍が迫ってきていた。

米軍が迫ってきていた。

側五二高地地区（シユガーローフ）に進攻した。しかし、日本軍守備隊による猛烈な攻撃をうけ、戦車三台他多数の犠牲者を出し撤退した。

これが後に「シユガーローフ戦闘」として、沖縄戦に於いて類を見ない壮絶な戦いの幕開けであった。

このシユガーローフ<sup>註1</sup>と呼ばれる（以後五二高地帯）日本軍陣地は、三つの丘が東西に連なっている一見何の変哲もない高地帯で、米陸軍の作戦地図にも示されていない小さな丘陵地帯であった。

同地帯は、独立混成第四四旅団

（鈴木繁一少将）の第一五連隊（美田千賀蔵大佐）が守備にあたってい

たが、司令部は十二日の戦況を見て、強化のため同連隊第一大隊（長野崎

大尉）を右翼に配置、さらに十三日には、司令部の命令を受け同地域守

備隊として海軍から抽出された山口



高地頂上部から首里方面を見渡す（写真 遙か中央に首里城が見える）

隊（山口勝一少佐以下五百名）が第一五連隊の指揮下に入ることとなつた。

十三日の朝、米海兵隊第六師団は海兵第二二連隊、同二九連隊を投入し、猛烈な艦砲射撃と航空機支援のもと攻略してきた。しかし、守備隊側の巧みな砲撃で米海兵隊は大隊長一名戦死、中隊長三名負傷、以下多数の死者をだし攻撃は失敗に終わつた。

なお、当日支援の砲撃は混成四四旅団砲隊（原秀男大尉）、野戦重砲兵第二三連隊（神崎清治大佐）、海軍砲等によるもので、極度に制限された弾薬を有効に使い、ほとんどが一発必中であった。

十四日、米海兵第二二連隊第二大隊は、五二高地帯前面の高地を越えて前進しようとしたが、守備隊の的確な砲撃で将兵五十名中四十五名が

死傷し、無事帰ってきたのはわずか五名であった。さらに米海兵隊は生き残った兵士達を一個小隊に再編し、再度夕刻攻撃をかけたが小隊長以下ほとんどが戦死、また生き残つた数人の兵士も五二高地丘腹にしがみつき、そこから前進も退却もできない状況のまま夜明けを迎えた。

十五日早朝、米軍は前日から高地丘腹にしがみついている兵士を救援すべく、後方の補給部隊等から兵士をかき集め増援部隊を送ったが、小隊長以下ほとんどが戦死した。この三日間の戦いで米海兵第二二連隊第二大隊は約四百名の死傷者を出し、同隊は十五日付けで戦闘任務を解除された。

一方守備軍である独立混成第一五連隊も米軍の砲撃により多大の損害を受けており、退却した米軍に対し、反撃する余力はなかった。

十六日、米軍は兵力を増強させ攻撃を続行したが、五二高地帯の日本軍陣地の連携により、各高地に登つた米軍兵士は近くの丘から砲火を浴びせられ、またその丘にいる米軍兵士は五二高地から砲撃を浴び、米軍はまったく手も足も出ない状況であった。

この日、米軍は二個連隊を投入し全力を傾けて攻撃したが、日本軍守備隊の前に完敗したのである。米軍資料によると「五月六日の戦いが全沖縄戦中で最も熾烈な戦闘のあつた日」だと記されている。

しかし、守備隊も海軍の山口大隊が大隊長以下ほとんどが戦死し、残存者は負傷者二十二名のみという状

況であった。

十七日午前八時三十分、米海兵二九連隊は、艦砲、航空機、砲兵の援護砲のもと再度進攻してきた。今回

は五二高地正面と側面の丘を第一、第二大隊が同時に攻撃し、東方側面の丘にある陣地が破壊された。その間、五二高地東部から米海兵E中隊が頂上にたどりついたが、独立混成第一五連隊野崎大隊がこれを逆襲、再度奪回した。

米軍はこの後三回にわたり攻撃を繰り返し、一度にわたる白兵戦の後、ついに山頂が奪取された。しかしながらの時点で米海兵E中隊の死傷者は百六十名を数え、弾薬も使い果たしていたため、陣地を放棄撤退した。

十八日、早朝より戦車を伴い米第二九海兵連隊は攻撃を開始。米軍はロケット弾、野戦砲を用い進攻。一方守備隊も迫撃砲、機関銃で勇敢に

応戦したが、午前九時四十六分ついに五一高地は米海兵隊の手に落ちた。

そして、夜に入り残った日本軍守備隊が夜襲をかけ、機関銃をすえて反撃したが未明までに撃退された。

その後十九日にも野崎大隊の逆襲により、一時的に頂上を奪回したが、死傷者多数のため保持することができず、同日黎明安里北側台地に後退。ここに五一高地は完全に米軍の手に落ちることとなつた。

この戦いで日本軍守備隊は、米軍の圧倒的な砲撃にもかかわらず、地形を活かしながら正確な砲撃と組織的な戦闘によつて八日間もの間この五一高地を死守しつづけ、その間米第六海兵師団に三名の大隊長、十一名の中隊長の死傷者が出了ほか、一二、六一二名の将兵が死傷し、一、二八九名の戦闘疲労者（精神病者）が発

生した。

しかし、日

本軍も守備の

独立混成第四

四旅団指揮下

の山口大隊

（海軍約五百

名）、独立混

成第一五連隊第一大隊（約四七〇

名）、特設第一旅団伊藤大隊に死傷

者多数が出、精銳を誇る第三二軍沖

縄守備隊の沖縄防衛に陰りが出るこ

とになつた。

#### ※参考文献

「戦史叢書 沖縄方面陸軍作戦」一九六八年防衛府防衛研修所戦史室著

「日米最後の戦闘」一九六八年米国陸軍省編、外間正四郎訳

註1 シュガーローフー＝山の砂糖の意味で、蟻が砂糖の山にいつせいに群がっている様子が、同高地帯奪還のため日米両軍兵士が参集しているのに例えた名称。



社務日誌抄（平成十三年九月～平成十四年八月）	
九月	十一日 広島県御調町遺族会正式参拝
十二月	六日 那覇まつり成功祈願祭 一七日 神嘗祭 二三日 春分祭 二三日 修養団捧誠会正式参拝及び神石祭
十一月	一一日 敬老祭 二二日 岡山県遺族連合会正式参拝
十二月	一六日 土佐の塔慰靈祭奉仕 一六日 福井県遺族連合会正式参拝 一八日 三重県遺族会正式参拝 一八日 宮崎県護國神社自由参拝 二〇日 佐賀県遺族会正式参拝 二三日 新嘗祭 二五日 岡山県四大寺遺族連合会正式参拝 二七日 神奈川県遺族会正式参拝 二八日 埼玉県遺族会正式参拝 二九日 和歌山県遺族連合会正式参拝
一月	一一日 内親王殿下誕生奉告祭 一四日 千葉県遺族会正式参拝 一四日 天長祭 一四日 睦國神社正式参拝 二二日 大祓式・除夜祭
二月	一一日 歳旦祭 一四日 成人祭 一九日 航空自衛隊那覇基地救難隊
三月	一一日 太鼓部新年奉納太鼓 二〇日 熊本県護國神社正式参拝 二二日 佐賀県護國神社正式参拝 二二日 鹿児島県護國神社正式参拝 二二日 福岡県護國神社正式参拝
四月	一一日 北海道沖縄会正式参拝 一九日 神道青年全国協議会正式参拝 二二日 和歌山県伊都郡遺族連合会正式参拝 二二日 春分祭
五月	一一日 北海道沖縄会正式参拝 一九日 沖縄南方全戦没者合同慰靈祭 （沖縄県神道青年会及びOB主催） 二二日 復帰記念祭（復帰三十周年） 二二日 特攻隊戦没者慰靈平和祈念協 会正式参拝 二二日 滋賀県遺族会正式参拝
六月	一一日 しづたまの碑慰靈祭奉仕 一九日 沖縄県全戦没者慰靈祭及び世 界平和祈願祭（神道青年全国 協議会主催） 二二日 埼玉県遺族連合会正式参拝 二二日 沖縄戦没者総合慰靈祭
七月	一一日 大祓式
八月	一一日 紀元祭 一五日 群馬県遺族の会正式参拝 一七日 札幌連合遺族会正式参拝 一八日 祈年祭 一九日 山形県神社庁正式参拝 二〇日 高知県遺族会（児童）正式参拝 二二日 青年ふるさとエイサー祭り 二三日 成功安全祈願祭

高知県遺族会正式参拝  
青森県護国神社正式参拝  
富山県遺族会正式参拝  
長崎県戦没者慰靈奉賛会正式参拝  
北海道連合遺族会正式参拝  
大分県遺族連合会正式参拝  
新潟県護國神社正式参拝  
岐阜県遺族会正式参拝  
山梨県遺族会正式参拝  
熊本県遺族連合会正式参拝  
広島県遺族会正式参拝  
福岡県護國神社連合会正式参拝  
長崎県戦没者慰靈奉賛会正式参拝  
北海道連合遺族会正式参拝  
大分県遺族連合会正式参拝  
新潟県護國神社正式参拝  
岐阜県遺族会正式参拝  
山形県神社庁正式参拝  
板垣正様正式参拝  
日本青年遺骨収集団正式参拝

## 写真で見る護国神社この一年



4月23日春季例大祭、航空自衛隊那覇基地太鼓部による奉納太鼓



5月8日沖縄南方全戦没者合同慰靈祭



5月15日復帰30周年記念祭



6月17日「しづたまの碑」慰靈祭

## 編集後記

沖縄県護国神社社報「うむい」第三号をお届け致します。  
特集「積徳学徒看護隊」の取材にあたりまして、貴重なお話をお聞きさせていただいた、ふじ同窓会会長新垣道子様をはじめ、同窓会の皆様に篤く御礼申し上げますとともに、紙面の都合上、皆様の体験談を全て掲載出来なかつたことに對しお詫び申し上げます。

大東亜戦争終決後はや半世紀以上が過ぎ、戦争を過去のものとして捉え、誤認したままその蓋をして世間に合う形で解釈する風潮を感じられます。

我々はいま一度英靈の声に耳を傾け、史実と事実を正しく認識し、これから進むべき方向を再度確認すべき時が来ていると思います。

発行 平成十四年十月一日  
発行所 沖縄県護国神社  
〒九〇〇一〇〇二六  
沖縄県那覇市奥武山町四四番地  
TEL〇九八一八五七一七九八  
FAX〇九八一八五七一七九一七  
編集担当 加治 順人  
印刷所 (有)うるま印刷

## 御奉納いただきました



◎絵画（琉球舞踊）六十号  
「はまひるがね」  
作 宮里 英子 殿



◎京都・仁和寺 藏  
国宝 絹本孔雀明王絵像（複製）



◎記念植樹（桜）

平成十四年六月十九日  
神道青年全国協議会  
会長 小嶋 今興 殿

- 内畑 弘著（著者より）
- 富山県護国神社 創建九十周年記念 遺名録  
財団法人修養団編（坂本大生様より）
- わだち日本学会・創造心学研究所  
代表 廣岡 正登 殿
- 修養団（SYD）平和写真展、写真帳  
財団法人修養団編（坂本大生様より）
- 恩愛をいただいて  
全国護国神社巡拝 小野 敦巳 著（著者より）
- 群馬県の忠靈塔等（御鎮座六十周年記念）  
富山県護国神社編
- 大東亜戦争の大義 新装改訂版  
堀口 秋彦 著（著者より）
- 飛驒の慰靈碑 矢崎 好夫 著（靖国神社より）
- 上毛かるたのこころ 浦野匡彦の半生  
西片 恭子 著（財団法人群馬文化協会より）
- 原爆阻止作戦 美屋士 和風 著（著者より）
- 靖国の祈り遙かに 飛驒護国神社編
- 群馬県護国神社編
- 新垣道子様をはじめ、同窓会の皆様に篤く御礼申し上げますとともに、紙面の都合上、皆様の体験談を全て掲載出来なかつたことに對しお詫び申し上げます。
- 飛驒の慰靈碑 矢崎 好夫 著（靖国神社より）
- 上毛かるたのこころ 浦野匡彦の半生  
西片 恭子 著（財団法人群馬文化協会より）
- 原爆阻止作戦 美屋士 和風 著（著者より）
- 靖国の祈り遙かに 飛驒護国神社編
- 群馬県護国神社編

## 寄贈図書

（平成十三年九月～平成十四年八月）

修養団第十五回沖縄シルバーボランティア 報告書

財団法人修養団編（坂本大生様より）

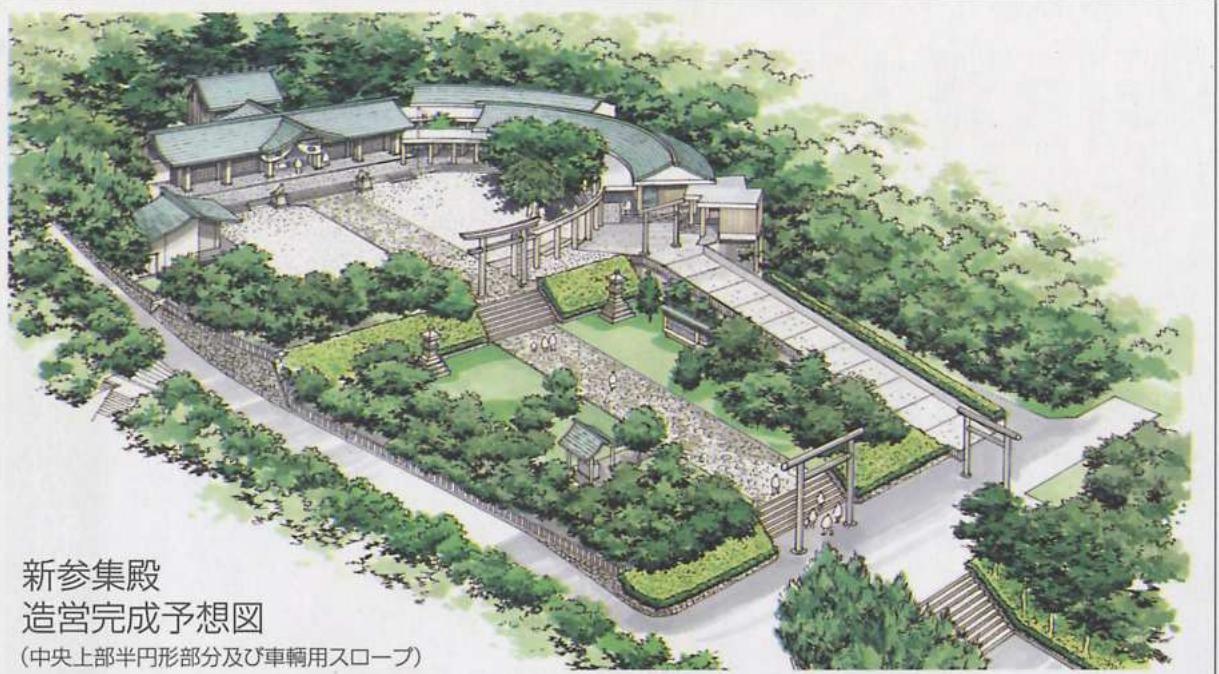
修養団第十五回沖縄シルバーボランティア 報告書

財団法人修養団編（坂本大生様より）

富山県護国神社 創建九十周年記念 遺名録  
財団法人修養団編（坂本大生様より）







新參集殿  
造営完成予想図

(中央上部半円形部分及び車輌用スロープ)

募  
集  
期  
間

ご奉賛金募集総額  
一億五千万円

沖縄県護國神社宮司  
新參集殿御造営準備委員長

又吉堅宗徳興



このように多くの方々の御芳志によつて支えられてきた沖縄県護國神社ですが、再建以降に建立、整備された社務所、倉庫、參集殿は狭小、老朽化し、加えて御遺族、戦友の方々の高齢化が進み、現在の施設では不足な面があることは否めません。そこで、御創建七十年目にあたる平成十七年竣工を目標に、これまでの社務所、倉庫、參集殿をひとつつの建物に集約した「新參集殿」の御造営を計画致しました。

この新參集殿御造営に当たりましては、御高齢となられた御遺族方や、障害者の方が気軽に参拝出来ることを第一に考え、段差の無いバリヤフリー構造とすることや、遠方から訪れた御遺族方が休むための休憩所を設けることなどを基本設計に取り入れました。つきましては、時局がら厳しい経済情勢下、誠に恐縮に存じますが、出来るだけ多くの方々からの御支援を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

**新參集殿御造営にむけて、多くの方々からのご奉賛をお願いいたします。**

沖縄県護國神社は、昭和十一年沖縄招魂社として現在の地に創建され、昭和十四年内務省令により名称を沖縄県護國神社と改称致しました。その建立にあたりましては、県内各市町村、学校、企業から多くの浄財が寄せられ、銅板ぶきの莊厳な社殿が造営され戦没者慰靈の中心として崇敬を集めてまいりました。

しかし沖縄戦にて神社施設が破壊され、その後の米軍統治により再建はおろか神社としての法人格さえ得られない状況のなか、昭和三十四年仮社殿が建立し、同年四月沖縄出身の戦没者と共に沖縄戦にて散華された全国都道府県出身の戦没者の御靈を合祀奉り、戦後第一回春季例大祭が斎行されました。その後、社団法人、財団法人として再建への活動を進め、県民からの净財を始め、全国知事会、靖國神社、神社本庁、全国護國神社会他からの多大なる支援を受け、昭和四十年十一月、現在の本殿・拝殿が再建されました。なかでも「全琉一セント募金」と称する全琉の小中学校児童生徒からの募金はその金額のみならず、児童生徒一人一人の平和への願いがこもる大変貴重な基金となりました。

このように多くの方々の御芳志によつて支えられてきた沖縄県護國神社ですが、再

## ご奉賛のお願い

沖縄県護國神社御創建  
七十一年記念事業

### ◎ご注意

この払込書は、機械で処理しますので、本票を汚したり、折り曲げたりしないでください。  
(郵政事業庁)

### ◎払込方法

表面の※印欄の合計金額とご依頼主欄に郵便番号、住所、氏名、および電話番号をはっきりご記入ください。

この受領証は、郵便局で機械処理をした場合は郵便振替の払込みの証拠となるものですから大切に保存してください。